

茨城県陶芸美術館 企画展
平成24年度 公立美術館巡回展支援事業

明治・大正時代の日本陶磁 —産業と工芸美術—

Japanese Ceramics in Meiji-Taisho era

プレス・リリース

平成24年10月20日（土）－12月9日（日）



細かい。
そして美しい。
(キャットコピー)

「高浮彫牡丹ニ眠猫覚醒蓋付水指」
宮川香山（初代）
明治時代前期（19世紀後期） 高30.5cm
田邊哲人コレクション（神奈川県立歴史博物館寄託）

茨城県陶芸美術館

〒309-1611茨城県笠間市笠間2345番地（笠間芸術の森公園内）
TEL 0296-70-0011/FAX 0296-70-0012
<http://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/>

1 展覧会名

平成 24 年度 公立美術館巡回展支援事業

明治・大正時代の日本陶磁 一産業と工芸美術一

2 開催趣旨

A : 一言でいうと (62 文字)

産業から美術工芸へ分化・派生していった明治・大正期の日本陶磁を紹介します。
輸出陶磁から帝室技芸員の名作まで約 130 点を展示。

B : もう少していねいにいうと (243 文字)

本展覧会では、日本窯業・陶芸史上、重要な位置付けがなされる明治時代から大正時代にかけて制作された日本の陶磁にスポットをあてます。輸出陶磁の全盛期であった明治時代前期に輸出された日本各地の陶磁器、また明治 20 ~ 30 年代にかけて各産地の自立と競争の中で生み出されていった新たな陶磁器、そして明治 30 年代以降のアール・ヌーヴォー、アール・デコに代表される新しい意匠・デザインの作品、帝室技芸員そして陶芸家の黎明期の作品など、近代陶磁の変遷について新たな研究成果を踏まえながらご紹介いたします。

C : 詳細にいうと (591 文字)

明治時代に入ると明治政府が推し進める殖産興業・輸出振興政策により、数多くの日本の陶磁器が欧米を中心に輸出されるようになりました。それらの陶磁器は当時欧米で盛んに開催されるようになった万国博覧会にも出品され、優れた技術と東洋的なモチーフなどにより、高い評価を得ました。その写実的で絢爛豪華な作風によってジャポニスム（日本趣味）の気運が盛り上がり、欧米のやきものに大きな影響を与えました。

このような状況の中で、各産地では西洋技術の導入や窯業技術の近代化などの変革がなされています。実業教育や工芸美術教育が積極的に推し進められ、前代までとは全く異なる様相を生み出していきました。また一方で、江戸時代からの職人工芸からの脱却も進み、美術工芸的な作品づくりを行う陶芸作家が登場していくこととなりました。

本展覧会では、日本窯業・陶芸史上、重要な位置付けがなされる明治時代から大正時代にかけて制作された日本の陶磁にスポットをあてます。輸出陶磁の全盛期であった明治時代前期に輸出された日本各地の陶磁器、また明治 20 ~ 30 年代にかけて各産地の自立と競争の中で生み出されていった新たな陶磁器、そして明治 30 年代以降のアール・ヌーヴォー、アール・デコに代表される新しい意匠・デザインの作品、帝室技芸員そして陶芸家の黎明期の作品など、近代陶磁の変遷について新たな研究成果を踏まえながらご紹介いたします。

3 展示構成

出品総数 127 点

※会場の都合により、若干点数が変わることがございます。予めご了承下さい。

第 1 章 輸出陶磁の全盛

第 2 章 産地の自立と競争

第 3 章 デザイン・技術の新しい波

第 4 章 名工から陶芸家へ

4 会期・会場等

会 期：平成 24 年 10 月 20 日（土）～12 月 9 日（日）（44 日間）

会 場：茨城県陶芸美術館 地階企画展示室

開館時間：午前 9 時 30 分から午後 5 時まで（入館は午後 4 時 30 分まで）

休 館 日：月曜日

5 主催・後援・助成等

主催／茨城県陶芸美術館、明治・大正時代の日本陶磁展実行委員会

後援／NHK 水戸放送局、茨城新聞社

助成／財団法人地域創造

6 観覧料

一般 700(550) 円／高大生 500(400) 円／小中生 250(200) 円

* () 内は 20 名以上の団体料金。満 70 歳以上の方、障害者手帳、療育手帳をお持ちの方及び付き添いの方 [ただし 1 人につき 1 人まで] は無料。土曜日は高校生以下無料。

7 関連催事 * 詳細は後日、チラシやホームページ等にてお知らせします。

○美術講演会

平成 24 年 10 月 27 日（土） 午後 1 時 30 分～ 当館 1 階多目的ホール（聴講無料）

講 師：伊藤嘉章氏（東京国立博物館 学芸研究部長）

定 員：120 名（先着順・当日整理券を発行）

○明治時代は煎茶が大流行！煎茶の呈茶をいたします。

平成 24 年 11 月 17 日（土） 午前 11 時から午後 3 時まで

呈茶券：500 円（先着 75 名）

主催：茨城県陶芸美術館友の会

○ワークショップ

波山の彫り技にせまる！「うすにく彫り DE アール・ヌーヴォー」

波山の”孔雀尾文様”を陶板に彫ってみよう。

平成 24 年 11 月 24 日（土）

午前の部：10：00～12：00／午後の部：13：30～15：30

定 員：各回 20 名（小学 3 年生以下は保護者同伴）

申込開始日：10 月 23 日（火）9：30～（FAX または電話にて事前申込）

※企画展チケットが必要です。

○ギャラリートーク

(1) 共同企画館の学芸員と展示をみよう！

大槻倫子氏（滋賀県立陶芸の森陶芸館 主任学芸員）

平成 24 年 10 月 20 日（土）午後 1 時 30 分から

(2) 担当学芸員と展示をみよう！

平成 24 年 12 月 1 日（土）午後 1 時 30 分から

8 連絡先

茨城県陶芸美術館 〒 309-1611 笠間市笠間 2345 番地（笠間芸術の森公園内）

TEL.0296-70-0011 / FAX.0296-70-0012

展覧会担当 学芸課 副主任学芸員 花井 久穂 hanai.hisaho@mail.ibk.ed.jp

広報担当 企画管理課 副主任学芸主事 田村美穂子 kouhou@tougei.museum.ibk.ed.jp

写真を掲載する際には、作品キャプションを併記してください。



「金襤手武者文瓶」(一対) 薩摩焼・苗代川系
明治時代前期～中期 高 (左) 79.2cm (右) 78.5cm
財団法人ウッドワン美術館蔵

「白磁籠形薔薇文掛花入」盈進社
明治時代前期 高 16.5cm
兵庫陶芸美術館蔵(田中寛コレクション)



「黄釉上絵花鳥図扁壺」布志名焼
明治時代前期～中期
高 24.9cm 個人蔵

「墨絵入珈琲碗皿」京都陶器会社
明治 24 (1891) 年
口径 皿 14.5cm 廣誠院蔵



「上絵草花文双耳花瓶」
錦光山宗兵衛 (七代)
明治時代後期
高 38.5cm 個人蔵

「釉下彩沢瀉花瓶」
石川県立工業学校
明治 34 (1901) 年頃
高 22.0cm
東京藝術大学大学美術館蔵

「釉下彩上絵牡丹木蓮桜花浮文花瓶」
清風与平 (三代)
明治 30～大正 3 (1897～1914) 年頃
高さ 41.6cm 個人蔵

